知らないうちに感染していることがあります！

一生に一度は肝炎ウイルス検診を受けましょう

ウイルス性肝炎は、ウイルスによる感染症で、そのウイルスの種類によりＢ型肝炎、Ｃ型肝炎などと呼ばれています。

三重県内には、Ｂ型およびＣ型肝炎ウイルスに感染している人が5,000人程度いるといわれています。しかし、感染の原因が不明であったり、感染していても自覚症状がほとんどないことが多いため、感染が発見されていない人もいます。肝炎は、全身倦怠感、食欲不振、吐き気、嘔吐などの症状が現れます。

特に40歳以上の方に感染者が多いと言われていますが、その原因は、肝炎ウイルスに汚染された注射、輸血、血液製剤が使用されていたためです。気になる方は、一度肝炎ウイルス検査を受けることをお勧めします。

医療機関名	電話番号	医療機関名	電話番号
アクアクリニック伊賀	☎21-6500	西田整形外科医院	☎23-4556
浅野整形外科内科	☎36-2550	ひらい小児科クリニック	☎21-3101
あずまクリニック	☎26-0333	広瀬医院	☎21-1383
新医院	☎21-3381	松本胃腸内科	☎26-3750
伊賀市健診センター	☎24-1186	みずたにクリニック	☎21-8585
伊藤医院	☎24-4700	宮本医院	☎21-4719
猪木内科医院	☎21-8288	森川病院	☎21-2425
上野病院	☎21-5010	森田クリニック	☎22-2233
上野こどもクリニック	☎23-8558	ゆめが丘クリニック	☎26-0100
馬岡医院	☎21-3005	吉村クリニック	☎22-2121
大西医院	☎21-0219	紀平医院	☎45-5470
岡波総合病院（健康管理センター）	☎24-2555	まちしクリニック	☎45-7788
		河合診療所	☎43-1511
佐々木内科	☎21-3100	あずま診療所	☎46-9977
佐那具医院	☎23-3330	阿波診療所	☎48-0004
嶋地医院	☎37-0114	山田診療所	☎47-0305
しみずハートクリニック	☎21-4528	竹沢医院	☎59-2019
滝井医院	☎23-1111	川原田内科	☎52-0500
竹沢内科歯科医院	☎23-5553	黒田クリニック	☎52-2099
竹代クリニック	☎22-2300	城医院	☎52-0017
中産婦人科緑ヶ丘クリニック	☎21-5678	霧生診療所	☎54-1002
梨ノ木診療所	☎26-5533		

【対象者】

①昭和43年生まれの方

②①以外で過去に肝炎ウイルス検査を一度も受けたことのない方で次の項目に該当する方（昭和45年3月31日までに生まれた方）

- 過去に肝機能異常を指摘された方
- 広範な外科的手術を受けたことのある方
- 妊娠、分娩時に多量に出血したことのある方
- 特定健康診査で、GPT値により要指導とされた方

※ただし、対象者に該当する方でも、以前に肝炎検査を実施したことが確実である場合、過去にＢ型、Ｃ型肝炎治療を受けたことのある場合は、対象から除きます

【と　き】 8月1日～12月31日

【ところ】 伊賀市内の指定医療機関（別表医療機関）

【方　法】 直接、医療機関で受診してください

【内　容】 問診

Ｂ型肝炎ウイルス検査、Ｃ型肝炎ウイルス検査

【受診負担金】 1,200円（各医療機関窓口でお支払いください）

※ただし、70歳以上の方（昭和15年3月31日までに生まれた方）、65～69歳で一定の障がいがあり、後期高齢者医療被保険者の方、生活保護受給証明書持参の方は無料

【注意事項】

- 肝炎検査は、Ｂ型肝炎、Ｃ型肝炎を併せて実施します
- どちらか片方だけの検診はできません
- 検診日前日の暴飲、暴食は避けてください

※保健所では、上記対象者以外の方の検診もしていますのでお問い合わせください

三重県伊賀保健福祉事務所　☎24-8070

【問い合わせ】

本庁健康推進課	☎22-9653
いがまち保健福祉センター	☎45-1015
阿山支所住民課	☎43-9711
島ヶ原支所住民課	☎59-2163
大山田支所住民課	☎47-1151
青山保健センター	☎52-2280

聴診器 市民病院だより

ヒブ（Hib）ワクチンの接種をお勧めします

ヘモフィルスインフルエンザ菌（Hib）は、小児の細菌性髄膜炎の半数以上の原因になる細菌で、その他にも喉頭蓋炎、肺炎などの重症感染を引き起こします。

莢膜（きょうまく）という膜で細菌表面が覆われているため、好中球（こうちゅうきゅう）（白血球の一つ）が細菌を貪食することができず、病気が重症化します。

重症化を防止するためには莢膜を壊すための抗体が必要で、生後すぐには母体からの移行抗体が存在しますが2・3カ月で消失しその後は抗体の無い状態が続きます。このため乳幼児期はHibによる重症感染が起こりやすく、全国で毎年600人程度の細菌性髄膜炎の発症があるとされています。またそのうちの30％はなんらかの後遺症を残すとされています。

Hibによる感染を防止するためにヒブワクチンが開発され、アメリカではワクチンの普及により罹患率が1／100に減少したという報告がされています。我が国でも昨年12月にヒブワクチンの発売が開始されました。

接種方法は初回免疫として4週おきに3回の接種と追加免疫として1年後に1回の接種を行なうのが標準です。この接種方法で初回免疫終了後で92.4％、追加免疫後で100％の長期感染予防レベルの抗体獲得が確認されています。

接種時期は乳児期早期からが望ましく、DPT（三種混合ワクチン）との同時接種も可能です。

現在のところは任意接種のワクチンですので公費負担が無く費用がかかります。この点では早期に定期接種に組み込まれることが望ましいのですが、重症感染からこどもを守る手段が一つ増えたと考えていただき、ぜひ接種を前向きに考えてみてください。

ワクチンの供給も現在のところ十分ではありませんので、ヒブワクチン接種に関する詳しいことは、一度かかりつけの小児科の先生にお尋ねになってみてください。

小児科　川口　寛